

東京経済大学大学院 経済学研究科 入学試験 (2025年度 1期入試)

課 程	修士課程
入試区分	留学生入試
試験科目	経済政策
出題意図	志願者本人が希望する専修科目に関して、学士レベルでの専門的な知識及び理解力、論理的な思考力を問う問題である。
解答例	<p>特定の解答に誘導し、筆記内容が画一的になると、筆記試験が意図する思考・表現力、創造性等の把握が困難になるため、解答例は公開せず、解答のポイント（採点基準）を公表しております。</p> <p><解答のポイント（採点基準）></p> <p>主に以下の点を評価対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 出題意図を念頭に置き、設問の内容を把握できていること。(2) 設問に対する解答に必要な、専門分野に関する学士レベルの専門的な知識を修得できていること。(3) 設問内容と上記知識との関係を明確に認識できていること。(4) 設問に対する解答を、上記の認識に基づいて論理的に行えていること。(5) 上記の諸点を無理なく読み取れる解答であること。

※ 公開している入試問題等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

2025 年度入学試験（1 期）経済学研究科・修士課程
留学生入試 筆記試験問題
【専門科目：経済政策】

2024 年 10 月 5 日（土）実施
東京経済大学大学院経済学研究科

* 解答は別紙の解答用紙に記入すること。

以下のすべての問題に解答せよ。

問題 I

教育年数と所得には正の相関が見られる。この関係を説明する経済学の理論に人的資本理論とシグナリング理論がある。両者が教育と所得の関係をどのように説明するか、それぞれの理論の基本的な考え方について述べよ。

問題 II

経済学の実証研究で用いられる手法の一つに、差分の差分法 (Difference-in-differences ; DID) がある。

問 1 差分の差分法の基本的な考え方を説明せよ。

問 2 差分の差分法を使った具体的な分析例を述べよ。